

海岸清掃を続けシロチドリやウミガメが産卵する豊かな砂浜取り戻す

## 農林水産大臣賞 鹿児島県 阿久根市立脇本小学校

遠浅の白い砂浜が約3kmにわたって続く脇本海水浴場。夏場は県内外から多くの観光客が訪れ、東シナ海に沈む夕陽スポットとしても知られている。その景観を守るために海岸清掃活動に取り組むのが同校の児童たちだ。砂浜にはペットボトルや空き缶などの漂着ごみが広範囲に散乱しており、長年にわたりごみ回収に励んでいる。

きめの細かい砂浜には多様な動植物が生息している。中でも、アカウミガメやシロチドリが毎年、産卵に訪れる浜辺としても有名で、児童はNPO法人脇本海岸ウミガメ・シロチドリ会の協力を得て、体験学習に取り組む。絶滅危惧種であるシロチドリは、全国的に急速に数が減少しており、脇本海水浴場でも、ヒナの巣立ちを確認できない年が増加。要因は複数考えられるが、砂浜の減少やヘビ、タヌキなどによる捕食などさまざま。砂に直接卵を産む習性があるシロチドリは、砂浜に草が伸びていたり、ごみが散乱していたりすると、産卵できない。無事に産卵したとしても、保護色の卵は人が気づかず踏んでしまうこともある。こうした現状を学んだ児童は、注意を促すポスターを作成し、住民と海岸に設置している。

さらに、数年前からは、漂着ごみに混じるマイクロプラスチックにも目を向け、回収実験を実施。きっかけは、海洋ごみがウミガメに与える影響について学びを深めたことだった。脇本海水浴場では、アカウミガメの産卵の減少も深刻だ。児童は少しでも産卵しやすい環境を整えるために、夜間パトロールに参加したり、家族と海岸を清掃したりと自主的に活動を展開。

NPO法人脇本海岸ウミガメ・シロチドリ会の本脇喜博副理事長は、「シロチドリは今後いかに減らさないかが大事で、守りたいと思える人を増やさなければなりません。子どもたちが保護活動に取り組む姿は、地域に好影響をもたらしています」と手応えを語る。

校区には、イワシ漁が盛んな黒之浜漁港がある。児童は、地場産業のひとつである水産業についても専門家から学び、海岸清掃が多様な生き物の保護につながることを実体験している。

環境問題を自分ごとして捉えながら、未来への責任を胸に刻む。ウミガメやシロチドリが訪れる豊かな砂浜を取り戻すために—。



### 鹿児島県 阿久根市立脇本（わきもと）小学校

学校長：川原園 達司（かわはらぞの たつじ）

児童数：188名（2025年11月末現在）

住所：鹿児島県阿久根市脇本 8060番地

電話：0996-75-0004

アクセス：肥薩おれんじ鉄道「折口」駅から車で約5分

上：脇本海水浴場の清掃に取り組む児童と地域住民、2左：シロチドリを保護するためのケージを設置し注意深く見守る様子、2右：ウミガメを保護する児童手作りの看板、3左：マイクロプラスチックの回収実験を実施、3右：地場産業でもある水産業について専門家から深く学ぶ、下：校区にあるイワシ漁が盛んな黒之浜漁港

学校名 阿久根市立脇本小学校

項目	活動内容等
1 推薦機関が受賞候補校等を推薦する理由	<p>1 脇本小学校の校区には、海水浴場として県内外から多くの人が訪れる脇本海水浴場（下村海岸）がある。児童にとっても、親しみのある場所であるとともに、ウミガメ及びシロチドリの産卵地として、地域とともに保全に努めている。</p> <p>下村海岸の清掃活動に毎年取り組み、児童の環境美化への意識を高めている。取組の様子はブログや学校便りで情報発信し、家庭・地域・卒業生などに周知している。</p> <p>このような活動は、地域全体の環境保全の啓発につながることが期待できる取組であり、他校の模範となる活動であると考え、推薦する。</p>
2 受賞候補校等の活動状況等	2-(1) 郷土の清掃活動を通して地域の環境美化に努めるとともに、郷土の自然に親しみ、郷土を愛する気持ちを育てることを目的とし、海岸清掃活動と環境保全活動に取り組んでいる。
(1) 活動の動機・頻度	<p>① 活動を始めた動機及び開始年月</p> <p>② 活動の愛称名があれば記入して下さい</p> <p>③ 月間又は年間活動回数</p>
	<p>① 開始年月日は不明であるが、少なくとも14年以上は継続している。(平成21年5月19日の記録より)</p> <p>② 海岸清掃活動…「ふるさと美化活動」 郷土の海岸と生き物を守るふるさと美化活動</p> <p>③-1 「ふるさと美化活動」 年間8回程度  <input type="radio"/> 毎年5～6月の春の一日遠足時  <input type="radio"/> 每年6～7月のPTA遠泳大会（試泳の3回及び当日）時  <input type="radio"/> 每年11月の持久走大会時  <input type="radio"/> 3年生の総合的な学習の時間  「脇本自然たんけん隊」  <input type="radio"/> 4年生の総合的な学習の時間  「新田川河口環境調査」</p> <p>③-2 総合的な学習での環境学習の取組  <input type="radio"/> 「脇本自然探検隊」 3年生 25時間  <input type="radio"/> 「われら脇本環境調査隊」 4年生 20時間  <input type="radio"/> 「自然から学ぼう」 5年生 8時間  <input type="radio"/> 「実践しようSDGs」 6年生 31時間</p>

項目	活動内容等
④ 活動のエリア	④ 脇本海水浴場（下村海岸）
⑤ 活動1回当たりの平均参加者数	⑤ 全校児童191人、全職員23人、計214人 〔令和6年度実績〕
⑥ 活動1回当たりの平均時間	⑥ 60分間
⑦ 収集物の処理	⑦ 回収する際は、袋で分別する。 収集ごみは、大きく分けて「燃やせるごみ（流木や竹等）」、「燃やせないごみ（プラスチック、発砲スチロール等）」に分別し、阿久根市環境水産課に処理を依頼している。
(2) 活動の独創性 活動の特徴	<p>2-(2) ふるさと美化活動を行っている脇本海水浴場（下村海岸）は、ウミガメ及びシロチドリの産卵地で、地域のNPO法人脇本海岸ウミガメ・シロチドリ会が保護活動を行っている海岸である。</p> <p>児童は、自分たちの身近な環境にある海岸を清掃することにより、生き物の保護活動に関わり、自然に親しみ、自然の美しさや地域の自然環境のすばらしさを感じることができている。令和3年度からNPOの協力により、マイクロプラスチック回収実験を行い、海洋ゴミがウミガメに与える影響についても深く考えるようになった。</p> <p>また、環境保護について学習を深めるために、NPO法人くすの木自然館代表理事の浜本麦さんを講師に、新田川河口の干潟の生物調査に取り組んでいる。</p> <p>このような環境学習を通して、SDGsの取組を身近なものとして考え、主体的に活動できる児童が育ってきた。また、活動の様子は、ブログや学校便りで情報発信している。</p>

項目	活動内容等
(3) 地域への貢献度 ① 地域の環境美化への貢献  ② 地域住民との協力活動  ③児童・生徒の活動に対する地域住民の反応	<p>2-(3)</p> <p>① ふるさと美化活動を行っている脇本海水浴場（下村海岸）は地域の方々も清掃活動に力を入れている。</p> <p>また、ウミガメやシロチドリの産卵地であり、保護活動を行っている海岸もある。次の時代を担う児童が清掃に励んだり、啓発用のポスターを作成したりして、産卵地保護活動に関わることで、地域住民の環境美化や自然愛護に対する意識も高めている。</p> <p>② ふるさと美化活動は、清掃活動だけでなく、活動の前後には、地域住民の方々にウミガメやシロチドリの産卵地を教えていただき、場所を確認する作業を行ったり、海岸や干潟の生き物について学習を深めたりすることで、児童が主体的に活動に取り組めるようにしている。</p> <p>また、児童が回収したごみを分別する作業を地域の方に手伝っていただいている。</p> <p>さらに、ウミガメやシロチドリ保護のポスターを児童が作成し、看板の製作を地域と協力して行っている。</p> <p>このような取組から、環境保護のために、自主的に海岸清掃に参加する家庭や地域住民が増えてきた。</p> <p>③ 児童が海岸清掃を行っている様子を実際に見ていただいたり、学校便り等で活動の様子を紹介したりすることで、地域住民の方々から児童に対する励ましの言葉や称賛の言葉をいただいている。</p> <p>環境美化やウミガメ・シロチドリの保護活動については、海岸の掲示板や立て看板を作成し設置することで利用者に知らせている。また、学校の環境美化の取組を新聞などで取り上げてもらうことにより、地域の方にも広く知っていただき、協力を得ている。</p>

項目	活動内容等
(4) 環境教育との関連 ① 環境教育と活動との結びつき	2-(4) ① 郷土の自然について知り、ウミガメやシロチドリの保護活動や干潟の貴重な生物について学習し、海岸清掃を行うことにより、環境問題に対する意識を高め、自分たちの手で地域をきれいにしていこうとする心情と実践的な行動力を養う。
② 活動開始後の児童・生徒の美化意識の変化	② 児童は、脇本海水浴場（下村海岸）を清掃することにより、ウミガメやシロチドリの保護活動への意欲が向上し、ごみの散乱防止、環境の保全・改善に努めようとする意識が高まっている。
③ 当該活動以外の環境教育実践活動	③ <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域高齢者への花鉢プレゼント</li> <li>○ 緑の日（毎月1回）緑化栽培活動</li> <li>○ リサイクル活動 空き缶・ペットボトル等の回収</li> <li>○ 算数科授業における回収したキャップの活用</li> </ul>
(5) 当該活動で他の表彰を受けたことがありますか	(5) 令和4年度海岸愛護運動知事表彰 令和6年度みどりの月間環境大臣賞
(6) 校内外活動のための時間の作り方	(6) 「ふるさと美化活動」については、春の一日遠足の時間帯(9:35～10:35)及び持久走大会時、PTA遠泳大会（試泳3回、当日）に実施している。
3 その他特記事項	3 活動の様子 上段：漂着ゴミの回収 下段：マイクロプラスチックの回収 

# 令和6年度阿久根市立脇本小学校 脇本海岸保全活動の取組

## 1 活動名

郷土の海岸と生き物を守るふるさと美化活動

## 2 活動目標

海岸の清掃活動を通して地域の環境美化に取り組み、環境学習を通して海岸に生息するウミガメやシロチドリの保護に取り組む。

## 3 活動内容・活動人数

(1) 「ふるさと美化活動」・・・学校近くの海岸清掃

全校児童 191 人、職員 23 人、計 214 人

(2) 「脇本自然探検隊」・・・脇本海水浴場（下村海岸）の環境について知り、ウミガメやシロチドリの保護について学習する。

3年生 36 人

(3) 「わかれら脇本環境調査隊」

・・・脇本の河川の水質調査や脇本海岸の生物生態調査を行い、環境保護や生物保護活動に取り組む。

4年生 31 人

(4) 「自然から学ぼう」・・・脇本海岸の美化活動を通して、自然に親しむ活動に取り組む。

5年生 38 人

(5) 「実践しよう SDGs」・・・世界の国々での SDGs の取組について調べ、自分たちができることについて計画を立て実践する。

6年生 26 人

## 4 活動回数・活動時間

(1) 「ふるさと美化活動」・・・年間 6 回程度

春の一日遠足時 1 時間程度

持久走大会時 30 分程度

P T A 遠泳大会前の海岸清掃 2 回

総合的な学習の時間

3 年 脇本海水浴場清掃 4 年 新田川河口環境調査 5 年 脇本海水浴場清掃

(2) 「脇本自然探検隊」・・・ 3 年生 25 時間

(3) 「わかれら脇本環境調査隊」・・・ 4 年生 20 時間

(4) 「自然から学ぼう」・・・ 5 年生 8 時間

(5) 「実践しよう SDGs」・・・ 6 年生 31 時間

## 5 活動の様子

### (1) ふるさと美化活動

#### ア 活動前の準備

学校で縦割り(異学年)班で整列し、道具、ごみ袋等の準備を確認して、学校近くの脇本海水浴場(下村海岸)へ向けて出発する。



#### イ 海岸清掃範囲の確認

海岸に到着後、シロチドリやウミガメの産卵場所・生息場所の説明を聞く。



3月から産卵シーズンの始まるシロチドリだが、令和6年度は4羽(親鳥)しか確認できていない。また、過去2年間(令和4・5年度)はヒナの巣立ちを確認できていない。産卵に適した場所の草が伸びていたり、ゴミがあつたりすると天敵であるヘビが隠れる場所をつくってしまうことになる。

#### ウ 班ごとに活動を決め、清掃活動を行う。



シロチドリはここ数年で個体数が激減している。その主な原因と考えられる砂浜の環境悪化を避けるためにも定期的な清掃や草払いを行うことで産卵に適した場所をつくることが必要である。

## エ 活動の振り返り

清掃活動後、どのような種類のごみが落ちていたか、ごみの分別ができたかなど、活動の振り返りを行う。



### (2) 「脇本自然探検隊」

#### ウミガメ学習



#### シロチドリ学習



### (3) 「わくわく脇本環境調査隊」

#### 環境学習（干潟の食物連鎖）



#### 干潟の環境調査



### (4) 「自然から学ぼう」

#### マイクロプラスチック回収実験



#### マイクロプラスチック回収



(5) 「実践しよう SDGs」

町あるき探訪

SDGs の取組の発表（学習発表会）

